



## デイリー・ジーザス・ニュース #337

### イエスの復活と永遠の宣教

#### イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現

#### イエスの三度目の復活の出現：エマオへの道の二人の弟子に対して ルカ24章13-32節

=====

13その日、二人の弟子がエマオという村へ向かって歩いていた。エマオは、14彼らは、起こったすべての出来事について話し合っていた。15彼らが語り合ったり論じ合ったりしていると、イエスご自身が近づいて来て、彼らと一緒に歩いて行かれた。16しかし、彼らはイエスだとは気づかなかった。

17イエスは彼らに尋ねられた。 **「歩きながら、何を話し合っているのか。」**

彼らは暗い顔で悲しそうに立ち止まっていた。18その中の一人、クレオパという者が、イエスに尋ねた。 **「エルサレムにいらっしゃる方で、この間そこで起こったことをご存じないのは、あなただけですか。」**

19 **「何のことですか？」**と彼は尋ねた。

彼らは答えた。 **「ナザレ人イエスのことです」**。 **「彼は預言者で、神とすべての民の前で、言葉にも行いにも力がありました。20祭司長たちと私たちの指導者たちは、彼を死刑にするために引き渡し、十字架につけました。21私たちは、この方こそイスラエルを救う方だと期待していました。」**

しかも、この出来事から三日目です。22さらに、私たちの婦人たちが私たちに驚かせました。彼女たちは今朝早く墓へ行きましたが、23遺体は見つかりません。でしたところが、天使の幻を見て、イエスは生きていと告げられたと私たちに告げたのです。

24それから、私たちの仲間の何人かが墓に行ってみると、婦人たちが言ったとおりでした。しかし、イエスは見つかりませんでした。」

25イエスは彼らに言われた。「*あなたたちは、なんと愚かで、預言者たちの語ったすべてのことを信じるのに、なんと遅いのでしょうか。26メシアはこれらの苦しみを受けてから栄光に入る必要があったのではないのでしょうか。*

27そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体の中でご自身について書いてあることを彼らに説明された。

28彼らが目的の村に近づいたとき、イエスは、さらに先へ進むかのように進んで行かれた。29しかし、彼らはイエスに強く勧めて言った。「私たちと一緒に泊まりください。もう夕方です。日も傾いていますから。」そこでイエスは、彼らと一緒に泊まるために、村の中に入られた。

30彼らと一緒に食卓に着いたとき、イエスはパンを取り、感謝をささげてからそれを裂き、彼らに与え始めた。31すると、彼らの目が開けてイエスだと分かったが、イエスは彼らの前から消え去った。

32彼らは互いに言った。「道で話しながら聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は内に燃えていたではないか。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、*赤いイタリック体はイエスの言葉を示します*。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムからエマオへの道 (西)
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第9段階: イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの復活と40日間の宣教
	イースターの日曜日におけるイエスの5回の復活の出現

今日の朗読では、イエスが死から復活した後、どの「偉大な」使徒よりも、無名で知られていない弟子たちにご自身を現すことを選ばれたことが再び分かります。イエスが逮捕された夜、クレオパともう一人の名も知られていない友人が、どちらが偉大な信者かと議論していたとは考えにくいでしょう。使徒たちはまさにそうしていたのです。

神は高慢な者を拒み、謙虚でへりくだった者に恵みを与えます。復活の御姿にもそれが表れていました。

クレオパともう一人の兄弟は、エルサレムの西に位置する小さな村エマオまで、約2時間の旅をしていました。道はゴルゴタと園の墓のそばを通っていたので、イエスが彼らに合流するのは簡単でした。

イエスが男たちに近づいたのは午後のことだった。男たちはそれがイエスだと気づいた。聖書は、彼らの不信仰が「イエスだと分からなかった」ことを明確に示している。（ルカ24:16）彼らがイエスだと分かった瞬間、イエスは彼らの視界から消えた。信仰によって復活したイエスの存在を見」てしまった以上、もはやイエスを肉体的に見る必要はなかったからだ。これが、この出現がもたらした重要な教訓であった。

イエスへの彼らの質問の皮肉さは驚くべきものでした。「エルサレムを訪れている人の中で、この数日間でそこで起こったことを知らないのはあなただけですか？」イエスは、苦しみ、死に、そして復活した時に何が起こったのかを実際に知っていた唯一の人でした。

イエスが彼らに出来事を詳しく述べるように頼むと、彼らはペテロとヨハネが墓で経験した出来事で要約を終えました...「しかし、彼らはイエスを見なかった。」天使、マリア、そして他の女性たちが復活したイエスを見たと言ったにもかかわらず、彼らは依然として信じませんでした。なぜなら、使徒たちが復活を肉眼で確認しなかったからです。これはイエスを苛立たせました。

**「あなたたちはなんと愚かなことか。預言者たちが語ったすべてのことを信じるのに、なんと遅いことか。メシアはこれらの苦しみを受けてから栄光に入る必要があったのではないのか。」**

イエスは弟子たちに、聖書と、聖書と同等とみなしていたご自身の言葉によって、ご自身の復活を信じてほしいと願ったのです。弟子たちがイエスを肉体的に見たからではありません。復活し

たイエスの存在を肉体的に見るという行為は、まさにこの瞬間には無意味であることが証明されていたのです。二人の弟子は肉体の目でイエスをまっすぐ見ていましたが、不信仰のためにイエスだと認識できませんでした。

イエスが人間の目や確信を離れて死から復活した理由の一つは、信仰が神の言葉に基づいているからです。イエスは6度目の出現の際、**「見ずに信じる人は幸いである」と言われました。**イエスは復活後、自分が生きていることを確信させる多くの証拠を示しましたが、それは聖書の証言を確認するためであり、言葉の神への信仰を単なる感覚的知覚への信仰に置き換えるためではありませんでした。

イエスが二人の弟子に与えた旧約聖書の長い学びは、彼らの心を燃え上がらせました。これは、その後40日間にわたるイエスの復活後の数々の出現において、中心的な働きとなりました。イエスは弟子たちを常にご自身に関する聖書に浸らせ、それらをすべて成就されたことを示されました。イエスは彼らの信仰を、感覚的な経験ではなく、御言葉に根ざしたものにされました。

ついに、イエスが聖書からご自身について語るのを聞いた後、二人の弟子は、イエスが感謝の祈りを捧げてパンを裂いているのを見て、イエスだと分かりました。イエスのように祈った人は他に誰もいませんでした。

マリアがイエスを目にしていなくても、イエスが彼女の名前を呼んだ瞬間にイエスだと分かったように、弟子たちも祈りの中で父の名を呼んだ瞬間にイエスだと分かったのです。イエスと父との交わりの親密さ、深さ、そして活力は、他に類を見ないものでした。

応用：

イエスは彼らがイエスを認めた瞬間に彼らの視界から消え去りました。これは、私たちがイエスを物理的に見るかどうかに関係なく、イエスが私たちと共にいることは霊的であり、変わらないということを改めて示すためです。

聖書がイエスについて述べているすべてを真に信じるなら、私たちの必要はすべてイエスによって満たされます。天国に召される瞬間、あるいはイエスがこの地上に最後に再臨される瞬間まで、初めてイエスを肉眼で見るという祝福を辛抱強く待つことができます。それまでは、目に見えるものではなく、信仰によって生きる喜びに胸を躍らせましょう。

**あなたの信仰、行動、欲求、態度のどの部分を、イエスの言葉という確かな基盤の上に再び据える必要があるでしょうか。**

イエス様がいつもあなたと共にいることを忘れて、あなたは日々を過ごしていませんか？ 日々の生活の中で、イエス様の存在に再び意識を向けるにはどうすればいいのでしょうか？

聖霊があなたの理解力を広げ、御言葉にあるイエスの声を聞かせてくれるとき、あなたの心は燃えていますか？

来年、神の言葉と祈りに費やす時間をどのように増やせるでしょうか。